

2022 年度 自己点検・自己評価

実 施 日 : 2023 年 7 月 3 日

実施責任者: 校長 羽生美保子

実施担当者: 神谷(谷山) 文子(主任教員)、久田 かおり(専任教員)、西田 文乃、本多 淑子(事務局)

1. 教育の理念・目標

1-1 理念・目標は定められているか	1	2	3	4	⑤
1-2 学校の将来構想を抱いているか	1	2	3	4	⑤
1-3 理念に基づく教育が行われているか	1	2	3	4	⑤

1-1

公益財団法人名古屋 YWCA のキリスト教の基盤に立ち、女性及び青少年のリーダーシップを育て、持続可能な社会を創造し、すべての人にとっての正義と平和を実現するという目的に従い、語学教育を通して国際理解と交流を進めることをその趣旨として、日本語教育を行っている。

1-2

月に1回行われる職員会にて職員・専任教員間で常に話し合われている。

1-3

月に1回行われる講師会や定期的に行われる担当者会議で、各クラスの状況を確認している。

2. 学校運営

2-1 運営方針は定められているか	1	2	3	4	⑤
2-2 事業計画は定められているか	1	2	3	4	⑤
2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効果的なものになっているか	1	2	3	④	5
2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	1	2	3	4	⑤
2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	1	2	3	④	5
2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	1	2	③	4	5
2-7 危機管理体制は整備されているか	1	2	3	4	⑤
2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるように整備されているか	1	2	3	④	5

2-1,2,3

毎年事業計画を策定し、公表している。月に一回行われる職員会を今後の方針や新規事業などを検討し、決定する場としている。

2-4

設置団体の就業規則に定めている。

2-5

授業の報告や引き継ぎをクラウド上で行うなど、業務効率化を進めている。

2-6

年に1回自己点検を行っているが、現時点では第三者評価を受けていない。

2-7

地震や火災に備え、年に1回避難訓練を行っている。また防災用品や飲料水を学校各所に備蓄している。

昨年度より引き続き、コロナウイルス感染症対策として学生・教職員・来館者の検温、校内のアルコール消毒、換気、ソーシャルディスタンスの確保を徹底して行い、集団感染を未然に防ぐことができた。

2-8

告示基準を満たす施設にて教育を行っている。また定期的に管理会社が空気環境測定や水質調査なども行っている。

3. 教職員

3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	1	2	3	④	5
3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	1	2	3	4	⑤
3-3 教職員評価を行っているか	1	2	3	④	5

3-1

教職員の入職時や定例の講師会にて教育理念・目的を確認している。

3-2

月に1回全講師が参加する講師会を実施し、教材開発や指導方法の検討を行っている。また講師会の中で、日本語教育関係の学会やセミナーなどに参加した教師が報告する機会を設け、情報共有をしている。学期前、学期中に担当者連絡会やクラスごとの打ち合わせを行い、クラスの方針やシラバスの検討や見直し、学生の情報共有を行っている。新任教員に対しては専任教員が3か月教案指導等の研修を行っている。本年度は、中級レベルを新たに担当する講師のための勉強会を月に1回ペースで実施した。

3-3

年に1回校長と専任教員が全講師と面談を行い、担当授業数、担当レベル、学校への貢献度などをもとに評価を行っている。

4. 教育活動

4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	1	2	3	4	⑤
4-2 授業評価の実施・評価体制はあるか	1	2	3	④	5
4-3 目的に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	1	2	3	4	⑤
4-4 成績評価は適切に行われているか	1	2	3	4	⑤

4-1

進学や就職につながる体系的なカリキュラムを備え、知識・経験ともに十分な講師が授業を担当している。

4-2

学期中に担当講師が全学生に個別インタビューを行い、授業についての意見や感想を尋ねている。インタビュー結果は担当講師全員で共有している。

4-3

告示基準を満たす講師が担当している。経験豊富な中堅以上の講師を全クラスに配置している。

4-4

定期的にあチーブメントテストを実施し、担当教師全員で評価を行っている。

5. 学生支援

5-1 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	1	2	3	④	5
5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	1	2	3	4	⑤
5-3 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	1	2	3	④	5
5-4 保護者と適切に連携しているか	1	2	3	4	⑤
5-5 日本を理解するための支援が適切に行われているか	1	2	3	④	5

5-1

個別に進学指導を行っている。本年度は進学希望者全員が志望校に合格した。

5-2

学期中に担当講師が個別インタビューを行い、進路や生活の悩みなどを聞き取り対応している。
また生活指導担当者が常駐し、必要に応じて学生相談を行っている。

5-3,4

日本在住の身元保証人がいることを入学条件としており、入学前に学生とともに面接を行っている。学校生活に何か問題が生じた場合、すぐに身元保証人に連絡をするようにしている。また学生災害傷害保険に加入し、病気や怪我への備えを行っている。

5-5

本年度は、中区役所地域力推進室の職員を招き、授業内で日本での生活に関する質問や相談をする活動を行った。また設置団体名古屋 YWCA の国際交流会による「おしゃべり広場」を月に2回行っており、日本語で話したり日本文化を体験したりする機会を設けている。

6. 在留管理と生活指導

6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	1	2	3	4	⑤
6-2 日本の法令を遵守するための指導を行っているか	1	2	3	4	⑤
6-3 常に最新の学生情報を把握しているか	1	2	3	4	⑤

6-1

告示基準に基づき、アルバイト先の把握や出席率の報告などを行っている。

6-2

留学生と保証人に対し、入学前と入学時に、入管法上の留意点について説明している。

6-3

専任教員と事務職員は、クラス担当講師と連絡を密にとり、学生の状況を常に把握するように努めている。
講師間においても、毎日の引継ぎで学生の状況を共有している。

7. 学生募集と受け入れ

7-1 学生の受け入れ方針は定められているか	1	2	3	4	⑤
7-2 学生募集活動において、教育成果を正確に伝えられているか	1	2	3	④	5
7-3 入学選考は適切かつ公平な基準に基づき行われているか	1	2	3	4	⑤
7-4 適正な定員設定および在籍者数になっているか	1	2	3	④	5

7-1,2,3

募集要項に明記された入学条件の下、受け入れを行っている。留学仲介会社を通さず、直接日本在住の保証人より入学申し込みがあった学生のみ受け入れている。入学選考は、本人の意欲や日本語力、保証人の経費支弁力をもとに判断している。入学前に保証人に必ず来校してもらい、教育方針や入管法上の留意点などを理解した上で受け入れを行っている

7-4

在籍者数は定員内である。

8. 財務

8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	1	2	3	4	⑤
8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	1	2	3	4	⑤
8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	1	2	3	4	⑤
8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	1	2	3	4	⑤

8-1

財務基盤は安定していると言える。日本語学校の経営が悪化した場合であっても、設置団体のみなし寄付による補填が可能である。また、日本語学校の予算・決算は設置者のものと区分して編成し、遂行している。

8-2

毎年、愛知県に予算・収支計画を提出している。

8-3,4

毎年財団の監査を行っている。監査を経た財務諸表を設置団体名古屋 YWCA の HP 上に公開している。

9. 法令等の遵守

9-1 法令、設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	1	2	3	4	⑤
9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	1	2	3	4	⑤
9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に務めているか	1	2	3	④	5
9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	1	2	3	4	⑤
9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	1	2	3	4	⑤

9-1

設置団体内にコンプライアンス委員会が設置されている。日本語教育機関の設置基準に基づき、運営がなされている。

9-2

学生の個人情報について、紙ベースの書類は施錠ができるキャビネット、電子データはパスワードを設定し管理している。

9-3,4

毎年自己点検を実施し、7月1日に公開している。

9-5

入管庁、愛知県などへの定期報告は期日までに行っている。

10. 社会貢献

10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	1	2	3	4	⑤
10-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	1	2	3	4	⑤

10-1

春学期に難民奨学生 1 名を受け入れ、授業料、教材費を奨学金基金より負担した。また、国際的な仕事を目指す南山女子高校、椋山女学園高校の生徒2名のインターンシップを受け入れた。

また、本年度は文化庁「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」を受託し、スリランカ、モーリシャスなど、日本語教育機関がない地域にオンラインで日本語教育を提供することができた。

10-2

設置団体である名古屋 YWCA が行うボランティア活動、女性のつながりサポート事業「ナゴ女＊つながる」、ホームレスへの炊き出し活動「スーパークITCHン」などに積極的に参加している。

<評価基準>

5:達成している

4:ほぼ達成している

3:どちらともいえない

2:検討中である

1:改善が必要である